東北工業大学
同窓会ニュース
vol.
15
2011.September

A Graduates' Association News of
TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY.

工大人

Kodai-Jin!

3・11からの復活

The network more.

2 ●ご挨拶
同窓会会長 秋元 俊通
理 事 長 岩崎 俊一 氏
学 長 沢田 康次 氏
5 ●工大人座談会／3・11大震災復興支援活動報告
地域に貢献した母校と工大人
【出席者】東北工業大学
・情報通信工学科 4年 門脇 雄太氏
・建設システム工学科 4年 山崎 貴博 氏
・知能エレクトロニクス学科 4年 佐々木 智康 氏
東北工業大学 職員
・大学事務局次長 学務課長兼務 齋藤 建二 氏（電子工学科7回生）
・広報室事務主任 尾上 智宏 氏
【聞き手】東北工業大学 同窓会副会長 佐藤 明（工業意匠学科1回生）
13 ●活躍する工大人
東北工業大学生活協同組合 濱谷 崇 氏（工業意匠学科18回生）
奥田建設（株） 長谷川 純一氏（土木工学科27回生）
東日本旅客鉄道（株） 渡邊 英明氏（建築学科7回生）
一般財団 宮城県建築住宅センター 樋口 政志 氏（建築学科1回生）
名取市役所 犬飼 吉彦 氏（土木工学科6回生）
（有）ジーマデザイン 中島 敏 氏（工業意匠学科9回生）
北日本電線（株） 寺崎 知広 氏（環境情報工学科4回生）
21 ●東日本大震災 復旧支援ボランティア体験記
建設システム工学科 3年 久保田 晋太郎 氏
知能エレクトロニクス学科 3年 菊地 弘晃 氏
クリエイティブデザイン学科 4年 荒木田 菜摘 氏
建築学科 4年 宮守 大輝 氏
23 ●支部活動報告／新潟支部・青森支部・北海道支部
25 ☆第27回 定時総会のお知らせ
26 ☆東日本大震災被害状況・調査結果
学校法人 東北工業大学 復興支援金ご協力のお願い

このたびの東日本大震災で被災された皆様に
心よりお見舞い申し上げますと共に
一日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

【東日本大震災】
平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、三陸沖で M 9 (最大震度 7: 栗原市) という我が国観測史上最大の大地震が発生いたしました。被害は地震だけでなく、青森県から千葉県の太平洋岸を大津波 (波高 10m 以上、最大遡上高 40.5m) が襲い、それらによって被災した福島第一原子力発電所に重大な原子力事故が発生しました。東北と関東の広大な範囲で被害が発生し、震災による死者・行方不明者は 2 万人以上、建築物の全壊・半壊は合わせて 24 万戸以上、ピーク時の避難者は 40 万人以上、停電世帯は 800 万戸以上、断水世帯は 180 万戸以上に上り、正式名称を「東日本大震災」と名付けられました。

東北工業大学同窓会　会長
秋元 俊通（あきもと としみち）氏
1949 年　仙台市生まれ
1975 年　土木工学科卒業（5 回生）
現　　在　株式会社 秋元技術コンサルタンツ
代表取締役

まず以って、東日本大震災によって亡くなられた方々に深甚なる哀悼の意を表し、被災された皆様に心よりのお見舞いを申し上げます。

大学のある仙台市は、中心部の被害が少なく、原発事故の影響も少なかったため、大震災後の混乱はなんとか沈静化し、復旧復興に向けて歩み始めたところです。しかし、仙台市東部を含む宮城県沿岸部全域をはじめとして青森南部から茨城県までの海岸部の被害は甚大で、未だ瓦礫の撤去に追われております。

さて、当会も遅ればせながら、被災該当地の会員に対して安否確認と被害状況のアンケート調査を行いました。その結果、7 月末日現在、死亡者 (卒業生 17 名、在学生 5 名)、家屋全壊 (卒業生 89 件、在学生 104 件) となっております。家屋の半壊、床上浸水、小規模損壊等については数えられない程で、誠に痛ましいことです。そこで、当会では、些少ではありますが、亡くなられた会員のご家族および家屋全壊の会員に対して見舞金を贈らせていただくことといたしました。

大学も少なくない被害を受けたにも拘わらず、また避難所に指定されていないにも拘わらず、近隣の避難者を受け入れましたことに敬意を表するところです。また、被災された学生、入学予定者の世帯を対象とした経済支援策として学費減免措置を行うなど、可能な限りの救援策を講じておられます。私たちとしても、大学が呼びかけている「学校法人東北工業大学復興支援金」募集 (後掲 26 ページ) に応えたいと思っておりますので、皆様のご協力をお願い申し上げます。

震災対策以外の当会の活動といたしましては、機関誌「工大人」の発行、既存の新潟・青森・北海道支部の支援、「岩手県工大同窓生の集い」の開催、大学講演会と連携しての父母懇談会への協力などを行っており、次年度からは秋田・山形・福島、関東地区に支部拠点作りを行い、更に新しいネットワークの構築に邁進したいと思っております。また、来年 6 月には第 5 版の同窓会名簿の発行を予定いたしております。

なお、 震災により失職された会員や内定取り消しを受けた会員、また転職を希望されていらっしゃる会員のために、当会ホームページ上に求職・求人のコーナーを立ち上げるべく検討中であることを申し添えます。

10 月 1 日 (土) に開催予定の定時総会で、皆様とお会いできることを楽しみにしております。奮ってのご参加をお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

大学の震災被害状況と今後

学校法人 東北工業大学 理事長
岩崎 俊一（いわさき しゅんいち）氏
1926年　福島県生まれ
1986年　東北大学電気通信研究所長
1988年　中国蘭州大学校名誉教授
1989年　東北工業大学学長、東北大学名誉教授
1991年　日本学術会議会員
1999年　中国ハルビン工業大学名誉教授
2001年　中国長春光学精密機械学院(現長春理工大学)名誉教授
2003年　叙勲 瑞宝重光章
2003年　日本学士院会員
2004年　学校法人 東北工業大学 理事長･学長
2008年　学校法人 東北工業大学 理事長
2010年　第26回日本国際賞受賞

平成２３年3月１１日に発生した東日本大震災によって被災された同窓会の皆様に対し、心からのお見舞い申し上げます。また、本学に対し、多くの方々から激励のお言葉やご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

今回の東日本大震災により、本学園学生５名、入学予定学生１名が犠牲となりました。前途有望な若者が、夢半ばにして生涯を終えたことを思うと誠に残念でなりません。また、家計支持者の死亡や、自宅を全半壊するなど、被災した学生の世帯を対象に経済支援策として、学費減免措置を行うなど可能な限りの救援策を講じているところです。

本学園の建物等被害は、これまで計画的に実施してきた耐震補強工事が功を奏し、倒壊等の大きな被害はありませんでしたが、講内の地盤沈下や施設設備、教育研究用機器設備等に相当の被害（高校も含め総額 5.6 億円）があり、皆様のご支援のもと復興を進めているところです。

さて、未曽有の大震災は自然の脅威を改めて我々に突き付けました。大津波の力を示す膨大な映像は、多くの教訓と復興に向けた貴重な資料となるでしょう。

この膨大な情報を、いかに次世代を担う子供達に伝えるかが課題と考えております。高度情報化社会において、私が発明した垂直磁気記録技術が、後世に伝える「ロゼッタストーン」として多くの人々に役立つことを願っております。

少子化時代、私学を取り巻く環境はこの大震災によりさらに激化することが予想されますが、「創造から統合へ」を本学園の志として、教育と研究の質を高めて社会の信頼に応え困難な時代を乗り越えたいと思います。卒業生の皆さんからのご支援を期待いたします。

【ロゼッタ・ストーン（Rosetta Stone）】
エジプトのロゼッタで 1799 年に発見された石碑。３種類の紀元前の文字で書かれていると推測され、現在は、イギリスの大英博物館で展示されている。

東北工業大学同窓会の皆様

東北工業大学 学長
沢田 康次（さわだ やすじ）氏
1937年　大阪府生まれ
1994年　大川出版社賞受賞
1996年　東北大学電気通信研究所長
1999年　学術功労勲章受賞（フランス国政府）
2001年　東北工業大学教授、東北大学名誉教授
2004年　国際高等研究所フェロー
2006年　東北工業大学副学長
2006年　日本学術会議連携会員
2008年　東北工業大学学長

この度の大震災で被災されました皆様に衷心よりお見舞い申し上げます。被災の如何にかかわらず、日々、難しい状況の中で奮闘されていることと思います。大学も、学生の安全確認、経済支援、地域支援を重視し、一日も欠かさず、教育機関としての責務を果たしてきました。工大は卒業生の皆様のご活躍をベースにし、地域と共に歩むことを標榜してきましたが、その地域が凄まじい状況になり、地域と共に歩むことが如何なることかを毎日問い直されている気がします。

教育機関としては、短期的課題と長期的課題との両方を考えることが大切です。短期的には大学が蓄積してきた知恵を使って、この地域の復興のために今できることを被災者とともに考えることです。これには工大の多くの先生が活躍しています。本学の産学連携機関である「東北工業大学　新技術創造研究センター」が支援するプロジェクトは、都市復興に関しては、石巻と市街地・漁港の復興企画(稲村)、気仙沼市南町･南町海岸復興企画(今西)、牡鹿・雄勝半島の地域風景復興企画（福屋）、地域建築再生支援企画（渡邉）、産業復興に関しては、学生参加による販路マーケティング支援企画（佐藤）、地場産品復興支援企画（菊地）、地域産業組み込みソフト技術者研修企画（畑岡）、石巻港湾復興「微細藻培養オープンポンド施設建設」企画（神）、仮設住宅カスタマイズ企画（新井）など 17 プロジェクトが活躍しています。

長期的には、地域復興のリーダーとなる人材育成です。地域の産業が復興に精いっぱいで、卒業生に就職口を提供するゆとりがないので、地域に残る若者が減ることが懸念されます。一方では復興には若者の力が不可欠です。復興を進める企業にも、支援する自治体にもリーダーが必要です。実は震災時のように答えが見えない状況で前に進める人材は、現在の日本全体に必要なのです。優れた人材が育てば、その需要は必然的に生まれ、よいサイクルが回りだし復興が加速されるのです。

仙台学長会議とその実行機関で、私が運営委員長を務める学都仙台コンソーシアムでは「復興大学」（仮称）の設立を企画しています。既存の各大学に所属しながら、「復興」に必要な政治・経済・工学・環境・看護などを幅広く学び、未知の問題に挑戦するカルチャーを育てるセミナー、現場実習を重視する教育システムを作ろうとしています。

今年の前期セメスターが終わりました。先生方が口々に「学生は変わった。よい意味で」と感じています。隕石の落下時のような自然の大変動が起きると、進化と淘汰を促す淘汰圧が高まり恐竜の絶滅と鳥類への進化が進みます。生物進化と同様に、大災害時には社会組織の進化・淘汰も加速されます。平常時の社会的拘束が緩むので、少しの差が将来の大きな差になるのです。

東北工業大学も同窓生諸君の属する組織も、是非、共に進化しようではありませんか。

工大人座談会／3・11大震災復興支援活動報告

地域に貢献した母校と工大人

【出席者】
東北工業大学　学生
・情報通信工学科４年　門脇 雄太
・建設システム工学科４年　山崎 貴博
・知能エレクトロニクス学科４年　佐々木 智康
東北工業大学　職員
・大学事務局次長　学務課長兼務　齋藤 建二（電子工学科７回生）
・広報室事務主任　尾上 智宏
【聞き手】
東北工業大学　同窓会
・副会長　佐藤 明（工業意匠学科１回生）
本学 新技術創造研究センター事務長
ｅラーニングセンター事務長兼務

（敬称略）

3・11　14時46分、その時。

佐藤／皆さんは3・11 東日本大震災の際に学内外で被災されながら、大学内外で支援活動に大変活躍されたとお聞きしております。では、はじめに皆様が被災した状況や地震直後の活動をお聞かせください。

齋藤／私は八木山キャンパス１号館の学務課で執務中に地震が起こりました。

地震の発生時、「動かないで!」と言って、冷静に対処するよう指示しました。１号館は震度６程度では潰れない設計だと知っていましたので、とっさにこの言葉が出たのだと思います。地声が大きいのはこのような時に役に立ちますね（笑）。

１号館１階で倒れた機器はほとんどなかったのですが、３・４階内部は足の踏み場も無いくらいの全壊状態。災害時の必要物品は３階の会計課内に保管されていたのですが、書庫やロッカーが散乱し入室さえも困難な状況になっていました。

揺れが収まったあと、教職員・学生は、あらかじめ指定してある避難場所に自主的に集まり、その数はおよそ学生300名、教職員50 ～ 60 名ぐらいでした。学科毎にグループ分けを行い、教員の協力を得て点呼を行いました。

１号館１階　就職資料ファイルが散乱

震災直後中庭に避難

１号館３階事務所のキャビネットからは本が飛び出す

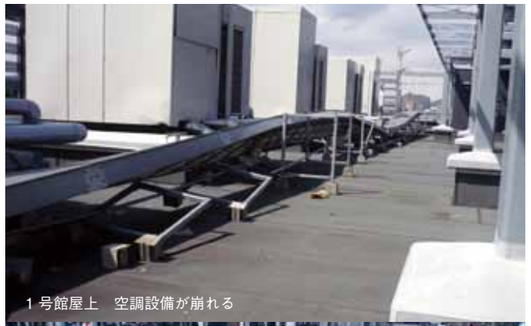
並行して、職員を複数人によるグループ分けを行い、各建物内で安否確認をするよう指示しました。エレベータへの閉じ込め、館内の残留者の有無を確認しました。また、30数年前に起きた宮城県沖地震の時、化学実験室から発煙したこともあり、その状況確認も行いました。

携帯電話の災害用伝言ダイヤル171 を利用しようとも試みたのですが、つながったのは地震発生から２時間以上経った17時過ぎ。それもすぐ通じなくなりました。

同時に災害用の備蓄品がある会計課倉庫内から、非常食、飲料水、毛布、発電機、乾電池、灯油、照明器具、電気コードリール類などを取りまとめ、夜に備えました。これが震災直後から17時頃までの状況です。

これらのことは、今後のために時系列で報告書としてデータ化しています。

佐々木／僕は自分のアパートで友人と一緒にいたときに被災しました。揺



１号館屋上　空調設備が崩れる

中庭の地面が隆起

齋藤／工大は指定避難所ではありませんが、近隣の住民やマンションに住む方々が集まりだし、17 時過ぎには 40 ～ 50 名が八木山キャンパス 1 号館 1 階に避難していました。

山崎／僕は野球部の部活動後、いつものようにバイクで

アパートのある緑ヶ丘から、八木山にあるアルバイト先に向けて走行中に松ヶ丘辺りで地震を感じました。一瞬強風かなと思ったのですが、あまりに揺れがすごくてバイクを降りたところ、付近の建物が大きく揺れていました。これは一大事だと感じ、一度家に戻ってガスの元栓などを閉め、アルバイト先ではなく、大学へ向かいました。

佐藤／ガスの元栓を閉めに戻ったとは、冷静でしたね。

5 号館外壁の一部が大きく欠け落下

5 号館の外階段が崩れる

山崎／大学に到着して安否確認を終えると、東松島市野蒜の友人が帰宅できずにいたので、彼を僕のアパートに連れて帰り、その後二日間ぐらい泊めました。

一同／偉いね～！

門脇／僕も山崎と同じ野球部で、アルバイト先も同じで

す。長町キャンパスでの練習を終えてアパートに帰り、アルバイト先に出掛けようとしていた時に地震に遭遇しました。そのときは一人だったし情報も無かったので、とりあえず状況を知りたくて大学へ行ったところ、凄いことなっていました（笑）。

その後アルバイト先の店長と連絡が取れ相談した結果、その日はアルバイトをせずに帰宅することに。丁度そのとき同じ学科の友人から、「たまたま就職活動で仙台に来ていた友人 2 人が帰宅できなくなって困っている」と聞きましたので、車を持っていた僕が彼らを迎えにいくことになりました。信号も消えた真っ暗な街を車で走って…。結局、友人の友人 2 人と僕のアパートでその後 2 週間ぐらい共同生活をしました。

震災後 3 日目に大学に行った際、復旧ボランティアの手が足りないというので、ずっと給水等のボランティアをやっていました。

佐藤／本当に偉いですね！　それにしても大学って、人のよりどころになっていたのですね。

私は当日、出張先の新潟で被災を知りました。駅校内のテレビで、津波が押し寄せてくる画像や死者数百名が打ち上げられているとのニュースを目の当たりに。そして次の日、なんとかタクシーに乗り帰ってきました。JR 等他の交通機関は動いていませんでしたから。

齋藤／そういえば、あの日の夜は久しぶりにきれいな星空を見ました。あたりが停電で真っ暗でしたから。

1 号館 3 階の教室は天井が床に折れ曲がる

尾上／私の場合は、地震の直前、携帯電話から“緊急エリアメール”（D 社サービス）が鳴り、なぜか直感的に「これは危険だ！」と感じて、その時にいたもう一人の職員と広報室

を出ました。するとすぐに強い揺れが。1 号館 3 階の階段踊り場から中庭をみると、5 ～ 6 人の学生がいることに気付きました。そこで揺れる階段を降りて中庭に出て、転倒での怪我を防ぐためにその場でしゃがむよう、学生に指示しました。石の駐車ポールが転がったり、10 号館も大きく揺れていましたから。

長い揺れが収まり、まずは学生の点呼を行わなくては、と思いました。学生名簿等が手元に無いため、「さっきまで一緒に居た人で、今ここに居ない人はいないか確認してください」という呼びかけをし、各学科の先生方に点呼をお願いしました。口頭ではありますが、全員の無事が確認できました。8 階建ての 10 号館から窓ガラス等の破片が降ってくることも心配だったので、10 号館から少しでも離れるよう学生に声掛けし、近くにいた三浦総務課長（当時）に安否確認状況を報告しました。

その後、八木山キャンパスに比べ職員数が少ない長町キャンパスが気になり、「長町キャンパスを見てきます」と告げ、自家用車で移動しました。長町キャンパスでは、既に学生と教職員が 1 号館の 3 号館の間の中庭に避難していて、けが人はいないことが確認されていました。雪が降りはじめ気温も下がってきたので、長町キャンパス事務室の判断でその場にいた学生や派遣職員に、長町キャンパスに駐車してあった大学のシャトルバスで暖をとってもらうことにしました。また、学内にガス漏れの情報がありましたので、「何か手伝えることがあれば」と思い、しばらく長町キャンパスに待機していました。

幸いにも、後期の授業も終了していて構内に学生は少なかったこともあり、大きな混乱もなく避難も円滑にできたのではないでしょうか。

齋藤／こうして 17 時過ぎ、大学の非常用放送システムで全教職員は八木山キャンパスに 18 時に集合するようにとの放送がありました。

尾上／僕は自宅が大学のすぐ近くなので、一旦帰宅し、自宅にあった非常時備品などを車に積んで、すぐ大学に向かいました。

10 号館　制震ダンパーが破損

10 号館環境情報工学科　重い実験器具も落下

10 号館環境情報工学科　実験室のボンベが倒れる

図書館の図書は大量に落下

その後、校内では

齋藤／避難してきた近所の方々には、学内で最も安全と思われる1号館の1階を避難所として解放しました。

石油ストーブの配置や、安否確認で大学を訪れる住民への対応も含め、現場での作業は大変な状態でしたので、災害用に学内備蓄してあった非常食、飲料水など、学生に手伝ってもらい配布しました。結局、被災当日は学生およそ250人、教職員50人、地域住民50人の合わせて350人が学内に泊まることになりました。

工大は正式な指定避難所にはなっていなかったのですが、地域の方々には“工大は安全”というイメージがあったのかもしれません。こうして工大では様々な情報をもとにして、3月17日午前中まで避難者の宿泊を受け入れました。提供した食料は通算600食ぐらいでしょうか。

非常にありがたかったのは、工大後援会秋田支部の方々から、ガソリン（40～50ℓ）をはじめ、食糧などを届けていただいたことです。当時、照明や通信手段の電源確保は、発動発電機に依存してましたから、これを動かすためのガソリンは貴重でした。消防法の関係で、常時学内に一定量以上のガソリンを備蓄することはできませんし、震災直後はGSも閉ざされた状況でした。被災後しばらくの間、ガソリンを求めてGSに並ぶ車がこの八木山キャンパス前の道路にまでつながって、緊急車両さえ身動きが取れないくらいでした。

学内に給水車が来たのは3月12日の昼頃です。先ほど言いましたように、工大は正式な避難所ではないので自動的に給水車は来ません。だから、総務課長が市の対策本部に給水車の派遣を要請したというのです。こうして地域の水道が復旧した後も、3月30日までの間、給水作業を行いました。地域住民が多い日で最高150人ほどの列を作っていました。近くの指定給水所では給水制限をしなかったため、列に並んでも給水を受けられなかった人が多くいたことから、工大での給水は一人あたり2ℓまでとしました。

活躍した工大人

佐藤／仙台市の職員と間違えられて、地域の人に感謝されたり怒られたりした工大職員もいたとか。

尾上／確かに数量制限をしたことに対してお叱りも受けましたが、皆さんに事情を説明し理解していただきました。

齋藤／学内各棟の防火用タンクから発電機を使って防火用水を汲み上げ、トイレ用水や生活用水として地域住民に提供して喜ばれました。

近隣住民や学生が1号館に避難

雪の中救援物資が届く

工大は給水所となり学生や職員がボランティアとして協力

学生ボランティアによる救援物資配給

これらの水汲みはじめ、飲料水の給水、避難者スペースの確保、消毒、ゴミの処分など、すべて学生たちが自主的に行い、八面六臂の活躍ぶりでした。高齢者の自宅まで重い水を配達した学生もたくさんいましたし、彼らは実にたくましかった。地域にとっても頼もしい存在だったと思います。いずれにしても、彼らのような学生がいなければ、到底成し得なかったことだと思います。

尾上／僕が住んでいる緑ヶ丘町内会の方々からも、震災時の工大生の活躍を褒められ、誇らしく感じました。

佐藤／門脇君と山崎君らが所属し目黒さん（総務課主任／同窓会運営委員）らが指導する本学野球部の皆さんは、岩沼市や名取市などの被災地でも復興支援ボランティアとして活躍したとか。支援を受けた企業さんから大変感謝されているとお聞きしてます。（詳細は21ページ参照）

ところで、3月11日以後実家と連絡はとれましたか？

山崎／地震後、はじめて実家に連絡が取れた時、実家も被災して帰宅できる状況ではない事がわかりましたし、両親や親戚からは大学に残ってボランティア活動をするよう言われました。

職員一同／そう言うご両親もすごい！

佐々木／地震後、秋田に住む祖母からの電話がつながったとき、初めて宮城県内の被害の大きさを知りました。そのときは他に情報を得る手段がありませんでしたから。

門脇／被災後すぐ、大崎市古川の実家に携帯電話でメールはしたのですが、返事はなくその後2週間も連絡が取れませんでした。後で聞いたら、僕が使っているS社の携帯は実家の地域ではずっと通じず、孤立していたそうです。

車で帰ろうにもガソリンも手に入りにくい状況でしたし、帰宅できない同居人を差し置いて自分だけ帰省する訳にはいきませんので、ずっと大学に残ってボランティア活動をしていました。

断水、ガス供給ストップ、停電にもかかわらず食事を提供

尾上／僕の妻は津波や火災で被害が大きかった気仙沼市の出身です。ラジオで気仙沼地区の被害状況は知っていましたが、実家とはしばらく連絡がつかず安否も不明で、居ても立ってもいられない状況でした。ですからこのときの大学での震災対応は、正直なところ、不安な気分を紛らわすためという部分もありました。それに比べて、本当に学生の活動ぶりは頭が下がります。

大学には災害用のマニュアルはありますが、今回の規模の震災では全てがマニュアル通りにいくわけではありません。こうした状況下で必要なのは、広い視野での判断力とスピードです。震災時に接点が多かった八木山キャンパス職員の中では、宮城県沖地震での経験を活かし率先して活動された総務課長、職員や学生にリーダーシップを発揮した目黒さん、全学の安否確認を取り仕切った渡邊さん（キャリアサポート課）、そしてあらゆる面で判断・指揮を執られた大学次長の存在に、すっかり頼ってしまいました。

生活用水の水汲み作業する学生たち

また、そういった人たちの判断を実行に移すために、積極的に行動した職員の方々にも後押しされながら、あの数週間を乗り越えることができたと思います。

さらに、誰に言われたわけでなく、自らト

イレ清掃を行っていた教員・職員といった人たちの存在も忘れてはいけないと思います。

齋藤／電気が回復した 3 月 14 日には大学の臨時ウエブサイトを立ち上げたことで一気に学生の安否確認ができ、最終的には 3 月 29 日には学生・教職員全員の安否確認が完了しました。

尾上／臨時ウェブサイトを立ち上げるまでの間も、院生や学部生がツイッター等を使って安否確認を進めていたそうです。

教訓　できることをする

佐藤／さて、学生の皆さん、この復旧支援活動で後輩に伝えたい事があるとすれば、何でしょうか。

山崎／職員の方々は安否確認等で多忙という状況で、僕たち学生ができる事は水汲みとか掃除とか、つまり「できることをする」ことだと思います。

佐々木／僕は自分の身を守ろうと大学に避難して来た訳ですが、そこでボランティア活動をしている山崎君らに触発されてボランティア活動を行うようになりました。山崎君たちのようになりたいって、本当に思いました。

この活動を通じて、相手の立場を考えた状況判断、積極性、自覚など、得るものがたくさんありました。自分の身を守ること。それは相手を考えること守ることと同じだということ。頼まれた事をすることが積極性ではなく、必要なことを自分で判断して自ら実践することが本当の積極性だと、今回実感しました。

職員一同／良い話ですね、教職員にもぜひ聞かせたい話ですね。(笑)

佐藤／そして今回、新たに学生のリーダーが誕生したという訳ですね。

門脇／被災した状況の中で、今までにない人との関わりができたことが良かったことだと思います。大学教職員の方々、地域の方々、ガソリンスタンドで一緒に並んだ人など、今までに話した事もない人たちとコミュニケーションができて仲良くなった。それが生きた社会勉強になりました。

尾上／学生も大変なはずなのに、それを周囲に見せることなく、明るくボランティア活動をしていたのが印象的でした。前向きで実に素晴らしかったですよ。

齋藤／食料などの受け取りも、地域の方々を優先した学生がいたのには感心させられました。

尾上／避難してきた高齢者の代わりに、販売店に並んで食料品の買い出しをしていた学生もいたそうです。それも身銭を切って…。我々職員にリンゴをお裾分けまでしてくれた学生もいました (笑)。

佐藤／コミュニケーションをとることが難しくなっているといわれる現代社会にあって、意外でした。そういった行動は自発的なのでしょうか?

山崎／カウンセラーの上西先生の「高齢者にはなるべく話しかけるように」というアドバイスを思い出して、そうしました。

齋藤／工大には自家発電機が 2 台あり、被災当時は照明や生活用水の汲み上げ等に使っていました。そんな中、人工呼吸器を使っている家族がいるので発電機を貸してほしいと訪ねてきた方がいて、事情が事情なだけに一台お貸しすることにしました。結局、電気が復旧した後、病院へ入院されたとお聞きしましたが、お役にたてて良かったと思います。

佐藤／今回の災害で大学が行った事、それは地震や災害に関する学術的な支援も確かにありました。それ以上に誇れる事は、ここで皆さんにお話しいただいた地域の方々に対する支援だと思います。

マスコミを巻き込んだ売名行為的な被災地支援もある中で、ただ「できることはした」だけという支援は、とても誇れることだと思います。工大、特に工大の学生は心強い。大学と彼らの活躍ぶりは「希望の光」として、ぜひOBや教職員の皆様に知ってもらわなければなりません、今後もずっと。

本日は貴重なお話をいただきありがとうございました。

(2011 年 8 月 1 日／八木山キャンパス 1 号館会議室にて収録)

【資料】
震災に伴う学生安否確認・被害状況

■安否確認状況 (単位：名)

区分	在籍者	安全確認者	死亡者
学部	2,992	2,987	5
学部 (入学予定者含む)	689	688	1
大学院	81	81	0
研究生	42	42	0
科目等履修生	1	1	0
計	3,805	3,799	6

＊調査対象人数は、3/1 現在在籍の学部学生、大学院生、研究生、科目履修生及び入学予定者。死亡者の中には入学予定者 1 名を含む。

■施設・建物等被害状況 (備品等含む)

工事等箇所	内　　容
八木山1号館	天井復旧・設備関係復旧他
八木山3号館	内部壁、ブレース取付部補修他
八木山4号館	体育館天井、煙突復旧他
	内部壁、外壁補修他
八木山5号館	ブレース、内部壁、送水管復旧他
	設備関係復旧他
八木山6・7号館	内部壁、ブレース補修他
八木山10号館	エレベーター復旧、廃棄等処理他
	ダンパー復旧他
八木山図書館	内部壁復旧、物品整理作業他
外構他	階段広場応急、青葉山グラウンド
	中庭周辺復旧
長町外構他	体育館前、テニスコート他
	北門・グラウンド復旧
長町1・2・3号館	内部壁、設備関係、天井等復旧他
高等学校本館・1・2号館他	内部壁、外構、設備関係復旧
高校擁壁	補強及び復旧
本館・2号館	外壁補修、渡り廊下解体他
備品等設備関係	
合　　計	大概算 5 億円

■学費等減免措置申請受付状況

(平成 23 年 8 月 22 日現在／単位：件)

	大　学	高　校	合　計
全壊	122	36	158
大規模半壊・半壊	169	36	205
家計支持者死亡	2	1	3
福島原発事故	3	0	3
合　計	296	73	369

＊今後増加し、最終的な減免額は2．8億円程度の見込み。

被災直後、体育館より火災を確認

10 号館　環境情報工学科　研修室は引出しごと落下

活躍する工大人

東日本大震災の中で

東北工業大学生活協同組合　専務理事
濱谷 崇（はまや たかし）氏
1965 年生まれ
1988 年　工業意匠学科卒（18 回生・小田研究室）
1988 年　東北大学生活協同組合に就職
2004 年　東北工業大学生活協同組合へ移籍
専務理事就任

３月 11 日は、週末に開催予定の新入生対象の「住まい紹介」と「自宅生説明会」の準備を生協長町キャンパス店内で行っていました。突然、激しい揺れが襲い、店内にいた学生を外へ誘導しましたが立っていることも困難な状況でした。間もなく停電になり、どのような事態になっているのか把握できませんでしたが、事実が明らかになるにつれ深刻な状況を理解しました。真っ先に頭に浮かんだのはアパートの退去を控えている卒業生と、これから引っ越しや住まいを探しに来る新入生の事でした。

震災直後から数日は、電気の復旧にともない電話対応に追われました。卒業生に関しては通常はアパートの管理会社が立ち会いのもと退去の手続きを取るわけですが、とりあえず自力で退去できるのであればそれを優先してもらい、管理会社へは後日連絡を取るように伝え、管理会社に対しても同様の依頼をかけました。

新入生に関しては、震災報道が沿岸部に集中していたため、仙台市内は問題ないと思っていた方がかなりいらっしゃいました。大学周辺の状況、ライフラインの状況を伝え、ガソリン不足のため仙台に来ても帰れない恐れがあることも知らせ、日程調整を行いました。また、津波で被災した新入生のご家族からは、情報を求めての問い合わせが増えました。中には直接生協を訪ねてくれた方もいらっしゃいました。お聞きしたところ自宅生説明会に参加された方で、生協に聞けば何かわかるのではないかと思ったらしいのです。新入生サポートは例年生協では最重点のひとつとして取り組んでいますが、そうした積み重ねが今回の震災では、少しだけかもしれませんがお役に立つことができたのではないかと思っています。

郵便が復旧してからは来仙予定の方に連絡をし、最終的には生協への資料請求をいただいた方全員に状況をお知らせする案内を送付しました。

大学が始まった５月以降は、大学からの要請もあり、被災地域から通学が困難な学生のために随時アパート紹介を行っています。また、６月からは全国の大学生協の取り組みとして、被災した学生にお見舞い金をおくる取り組みを開始しました。保護者の方を亡くされた方、実家が全壊した方を対象に３万円をお送りしています。７月末までに 58 名の方にお見舞い金をお渡ししています。現在は日常が少しずつ戻ってきましたが、これからも学生・教職員・大学に貢献できる生協運営をめざし日々がんばっていきたいと思います。

培った知識と経験を生かした復旧工事

奥田建設株式会社　土木部工事長代理
長谷川 純一（はせがわ じゅんいち）氏
1974 年　仙台市生まれ
1997 年　土木工学科卒（27 回生・千葉則行研究室）
同年奥田建設入社し、現在に至る。

はじめに、この度の東日本大震災で被災された方々へ、心よりお見舞い申し上げます。

さて、今回の東日本大震災による津波の影響で、大きな打撃を受けた仙台港背後地は、仙台国際貿易港に隣接する地区であり東北地方の国際貿易、交流拠点となっていました。また、仙台都市圏の物流拠点、工業生産拠点としての機能を持つべき地区として整備された地域であります。

当社は宮城県仙台港背後地土地区画整理事務所から、この仙台港背後地地区応急道路復旧工事の発注を受け、私は現場代理人として復旧工事に取り組みました。流された車両及びガレキ、堆積した土砂が交通路を塞ぎ地域復興作業の妨げとなっている為、それらの支障物の撤去作業を急ピッチで行いました。その結果、車両移動台数 410 台、ガレキ 4500㎥、堆積土砂 220㎥を撤去した上で、応急処理、舗装打ち換え、作業ヤード整備のそれぞれ一式工事を行いました。

交通路を確保することが、地域や企業復興の第一歩であると認識し、職員を始めとして末端作業員まで、地域の復興に向かって一丸となって取り組んだ結果、無事故で完了することが出来ました。

東北工業大学では、千葉研究室で地すべりについて研究しました。また、部活動はサッカー部に所属しゴールキーパーとして練習に励み試合ではチームを支えました。それらを含め大学で学んだ多くの事が、現在の職業で役立っています。

これからも、大学や会社で培った専門的な知識と経験を生かし、一日も早く皆さんに笑顔が戻るよう震災復興に取り組んでいきます。

着手前

ガレキ撤去状況

被災車両移動状況

復旧工事が完成した仙台港背後地地区

震災その時、そして再生に向けて

東日本旅客鉄道株式会社　仙台駅長
渡邉 英明（わたなべ ひであき）氏
1953 年　宮城県亘理町生まれ
1976 年　建築学科卒（７回生・材野研究室）
日本国有鉄道入社
1987 年　東日本旅客鉄道（株）東北地域本社
2004 年　同　　仙台支社　企画部長
2011 年　現職

はじめに、この度の東日本大震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

この度の震災はこれまで経験したことない未曾有のものでした。震災当日、私は出先より、列車にて仙台駅に向かっている途中でした。列車は東北本線太子堂駅を発車した後、まもなく強烈な縦揺れを感じ、列車は急停車しました。何とか、その揺れも収まりはしたものの、予断を許さない状況をそのままとは出来ず、列車の乗務員と共に速やかなお客さまの救済にあたり、お客さまには列車から降車していただき、高架橋スラブの上を徒歩で太子堂駅まで案内誘導しました。その傍ら、自分が勤務する仙台駅の状況が気懸かりであり、携帯電話にて駅の被災状況などを確認すると共に、その対応についての指示連絡などを行っていました。

お客さま救済後は、徒歩にて仙台駅に向い駅到着後、現況についての報告を受け、その後、駅構内を巡回しましたが、被害状況は随所に及んでおりました。新幹線ホーム階では天井が殆ど落下しており、各階に壁の亀裂や天井も含め一部崩落等かなりの被災を受けておりました。いずれにしても、駅を預かるものとして、駅でのお客さまの怪我等が最大の気懸かりであり、駅に到着するや否やお客さまには怪我等がないとの報告を受け、安堵した次第です。

今振り返ってみますと、正直、新幹線ホーム階の天井落下現場を見た瞬間、落涙してしまったことを憶えています。そしてこれほどの地震はこれまで経験したこともなく、復旧にはかなり時間を要すのではとの思いが脳裡を過ぎりましたが、私自身、工大卒業後は当時の国鉄に入社し、この駅舎の設計の一部に携わった一人として、一日でも早い復旧に向け取り組んでいくことを強く決意しました。

その後、駅舎の復旧工事については、昼夜兼行を含め進捗し、駅でも社員一同、一日でも早い復旧をとの思いで取り組んで参りました。その後、４月７日には強い余震により、復旧が後戻りをせざるを得ない状況となりましたが、これを乗り越え、４月２９日には東北新幹線が全線運転再開となりました。

今回の震災の復旧等を通じて、新幹線、鉄道などの交通が果たす役割は大きいものがあるということをあらためて感じました。正直まだ無常さが残る現実でありますが、当社としても、新幹線と在来線という鉄道ネットワークを最大限活用することにより、地域間の協調をサポートし、そして、このようなことが、今後の復興・再生に繋がっていければと考えています。

今後、これらの取組み等により、地域振興や活性化などに少しでも貢献できるよう努力して参ります。

最後になりますが、東北工業大学の益々の発展と同窓生の皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。

仙台駅新幹線ホーム天井落下部分

未曾有の大震災

一般財団　宮城県建築住宅センター　理事
樋口 政志（ひぐち まさし）氏
1947 年生まれ
1970 年　建築学科卒（1 回生・齋藤研究室）
同年宮城県庁に入庁し、土木部部長を歴任
現在、一般財団 宮城県建築住宅センター 理事

始めに、今回の大震災で尊い命が亡くなりました。いつも笑顔を絶やさなかった友人、会社を守った後輩、そして、多くのご遺族の皆様に謹んでお悔やみ申し上げます。

この大震災、想定外という見出しで全てが天災であるがごとき報じられていますが、千年ほど前に同じような大震災が来ている史実がありました。平安時代であり、今日と比較すると情報伝達が希薄であったとはいえ、歴史を侮っていなければ防げた災害であったと言えます。現に「波分け神社」があり、先人の教えを守って津波の来ない高台に住んでいた部落は全員助かりました。防災を語るとき障害になるのが「風化」です。喉元過ぎれば・・の例えの通り、記憶は次第に薄れていきます。ただ悲惨な出来事は「忘却」が人間に生きる力を与えてくれます。今回、多くの犠牲者を出したこの災害の教訓は子々孫々にしっかりと伝えていくことが我々の責務であると考えます。

本校の先生方にもお手伝いを頂いて、今回、被災自治体の復興計画作成に手を染めています。この文章が読まれるのはいつ頃になるのか分かりませんが、今、政治の混迷が復興相の茶番の演出にも繋がり、復興資金の遅れ、一向に進まない義援金の支給等、被災者を顧みない状況が続いております。

当初は、今回の津波を完全に防御する流れでした。想定以上の災害を前提にするならリスクゼロにはならない訳で、莫大な財源と時間が掛かります。そのため一転し、今までの防潮堤の高さでの復旧か、少しの＋αとなりそうです。又、瓦礫を利用した盛土の防潮林、堤防、道路を配し、二重三重の防潮堤とし、海に近いところに作業場や公園、避難ビル、内陸部に居住地を造る案が大勢を占めています。港町がコンクリート要塞にならないで済みそうですが、どの位復興財源が獲得出来るかが心配です。現行制度上か、復興特区等で知恵を使うことになります。「知恵を使わないやつは助けない」という言葉はここからきているわけです。ハードな取り組みだけでなく津波襲来を知らせる避難用サイレンや通信手段の整備等ソフト対策も考えられます。しかし、きれいな絵が描けても、財源の裏付けがなければ、絵に描いた餅です。

肝心なのは、被災者の意向調査等での裏付けです。どの位の被災者が住み続けるかによって、人口フレームが想定され、復興計画が作られます。しかし、高齢化した農林水産業、コミュニティー・生業の復活、そして、原発問題、風評被害の回復等々多くの課題を抱え、夢のある賑わいの街づくりは難門です。

震災直後のひとときでしたが、蝋燭の明かり、炭火の暖かさ、避難民となった親族がふれあい、ゆっくり流れる時間を感じました。今回の大震災は、文明の利器に頼りすぎて忙しく生きている我々に対し、警鐘を鳴らしたのではないでしょうか。何が正解なのか先の見えない状況ですが、今はせめて被災した人々の気持ちが癒されるような流れが出来ればと考えております。

大震災と都市基盤にかかる一考察について

名取市役所
犬飼 吉彦（いぬかい よしひこ）氏
1954 年　宮城県大和町生れ
1972 年　宮城県古川高校卒
1976 年　土木工学科卒（6 回生・東北大学水道工学研究室）
同年、名取市役所勤務（水道事業所、下水道課、都市計画課）
同クリーン対策課長、同政策企画課長
2009 年～同水道事業所長

このたびの未曾有なる平成 23 年度東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）により、我市を含め多数の犠牲者の方々に対し謹んで哀悼の意を表し、鎮魂の祈りを捧げると共に、被災を受けました皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

「災害は忘れた頃にやってくる」とは物理学者であり随筆家でもある寺田寅彦の言葉です。日頃より昭和 53 年の宮城県沖地震（M7.4 震度 5 ／強震）を教訓に、市民と共に防災意識を高めながらその時に備えてきました。各種インフラ施設においては耐震補強工事を行い、災害に強いまちづくりを進めてきました。30 年以内の発生確率が 99% と論述されてきたことから、近く来襲するだろうという心構えを抱いていたはずでした。

しかし、平成 23 年 3 月 11 日 (金) 午後 2 時 46 分の大地震は、東北地方一帯の太平洋沿岸都市に大津波を誘発させ、容赦なく尊い人命と財産、そして思い出の数々を土台から削り取り滅失させてしまったのです。M9.0、最大震度 7（本市は震度 6 強）と典型的なプレート境界型地震で、巨大複合型災害であるとも報じられました。

この地震規模は宮城県沖地震と比し約 32 倍のパワーと言われ、まもなく襲った約 9m のどす黒い魔物は安寧のまちを無慈悲に壊滅させました。史実では西暦 869 年平安初期の貞観地震以来の大津波で、現代の都市社会がほぼ成すすべもなく、ただ阿鼻叫喚を茫然とみつめる事しかない非情さ、土木技術を携わる者として想定外の無念さを痛感しました。

都市の安全度は全てにおいてイニシャルコストを重要視してきました。又メンテナンスコストにどの様な負担に絡むか等、事業アセスメントを効果と評価に照らしシビアに積算してきたはずなのです。しかし、これからの復興に際しては、千年に一度の大津波に対して、既往最大値或いは各種統計学による確率論等をどの様に設計要素としていくか、先行待機的な都市基盤創りとして多重防御等を含めた議論の数々、余地は多大なはずです。

私は今水道事業の責任者をやっております。水道はライフラインの要である命の水です。お客様に断水することなく速やかなる復旧を指揮し、たゆまぬ安定的給水に努めました。今回、本学同窓生の所属する各自治体からの支援はこと更感謝そのものであり、気兼ねなく絆に甘んじて、市民の水を守ることができました。新潟市水道局（篠川恒 s48）及び秋田市上下水道局 (青山浩二 s51) 様、縁の有り難さをしみじみ感じました。

現在、名取市には本学卒業生が 8 名おりそれぞれの立場で活躍しております。相澤利広(s50) 犬飼吉彦(s51) 小久保義博（s54）伊藤功（s62）渡辺文彦（s63）伊藤博紀（h6）山崎翔（h23）三浦龍哉（h23）と、皆が同じベクトルで災害の復旧から復興へと頑張っております。お近くにお立ち寄りの折りは是非お声掛けしてください。

根こそぎ流失した名取市閖上の市街地跡
海岸線に見えるのはかろうじて一部残った魚市場跡

東日本大震災から4ヶ月と10日

有限会社ジーマデザイン　代表取締役
中島 敏（なかじま さとし）氏
1979 年　工業意匠学科卒（9 回生・山下研究室）
　　同年、セノー株式会社入社
1985 年　大山ブロー工業株式会社（現アイリスオーヤマ）入社
2005 年　有限会社ジーマデザイン設立
現在、東北工業大学ライフデザイン学部の非常勤講師を兼務
【授賞歴】
Ｇマーク及び部門賞、日用品優秀製品コンクール通産大臣賞
アイリスデザインコンペ優秀賞、その他多数入賞

３月 11 日 14 時 30 分、私は、社員と同行し仙台市泉区のクライアント様に向かいました。その 16 分後、東部道路で大震災に見舞われました。

弊社は、２年前に新築した社屋が名取市閖上に有りましたが、無念にも社屋と残った２名の社員を一瞬にして消し去ってしましました。報道などで４００年や１０００年に一度の未曾有の出来事とは言いますが、言葉では言い尽くせない、深く重い緊張が走りました。このことは一生涯忘れることの出来ない出来事になりました。７月２０日現在、死亡行方不明者を合わせますと２万５７７人になります。亡くなられた方の御冥福を申し上げますと共に、一刻も早い復興を願わずには居られません。

思えば、工大４年の山下研究室時代に、仙台沖地震に遭遇し大変な思いをしたのに、今回の大津波は、その経験をあざ笑うかのように全てを無くし去っていきました。人間の愚かさや儚さを知り尽くしているようにです。しかし、亡くなられた社員のお父さんに「拓馬を忘れないで継続して欲しい」と言われたことで、私は我に返りました。弊社でデザイナーを目指し頑張っていた二人、志半ばで亡くなった故佐藤拓馬、故小野力の分まで、私が繋がずにどうする！
と、その時から一心不乱、不眠不休の日々が続きました。お蔭で賛同してくれる方が２名おり新たに採用、そして太白区八木山で有限会社ジーマデザインを４月４日再スタート出来ました。自分でも信じられませんでした。工大の菊地良覺先生、Ｇマークの平田先生を初め、沢山の方々の御支援、御鞭撻のお蔭です。

現在は仕事も徐々に増え、閖上で行っていたころの売上の８割近くまで回復し、また今までとは違うジャンルの仕事や遠方からのお客様も増えております。

最後になりますが、亡くなられた２名、新たに採用した２名は、偶然にも本校意匠学科卒の方々です。とても感謝いたします。「もの創りの火を絶やすことなく、今後も人と人の繋がりを大切にし、亡くなった２名の分まで、諦めない心を継続いたします」。（7／21 記）

上／名取市閖上にあった旧社屋
左／08 セノーランニングマシン
下／09 トレーニングマシン

支えあい

北日本電線株式会社　光デバイス事業部
寺崎 知広（てらさき ともひろ）氏
1985 年生まれ
2008 年　環境情報工学卒（4 回生・佐藤篤研究室）
2010 年　環境情報工学専攻修了
　　北日本電線株式会社入社。現在に至る

はじめに、この度の東日本大震災で被災された方々へ、心よりお見舞い申し上げると共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

現在、私は北日本電線株式会社 デバイス事業部 研究グループに所属しています。

光デバイス事業部では、光スプリッターや光コネクタ、コリメータレンズドファイバアレイ、薄膜コーティングデバイス、波長変換モジュールなどの光部品について設計・開発から製造・販売まで行なっております。私はその中でも波長変換モジュールという、入力された光の波長を変換して出力するモジュールの新規開発品の立ち上げに向けて、日々、業務に勤しんでおります。業務内容としては、２次元 CAD ソフトを使用した設計から、発注、受入検査、組立、評価、コスト低減など、頼もしい先輩方にご指導頂きながら忙しくも楽しい日々を過ごしております。

光デバイス事業部は、幸い地震による被害は少なく、３月末から通常どおり営業を再開しております。また、大変な時期では御座いましたが、このような状況だからこそ産業振興に貢献すべきとして、2011 年 4 月 13 日～ 15 日に東京ビッグサイトで開催された第 11 回光通信技術展 FOE2011 にも予定通り出展致しました。会場では、本当に多くの方々に暖かい励ましと激励の言葉を頂き、思わず胸が熱くなったことを覚えています。

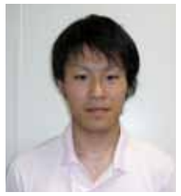
私が「光」に興味をもつこととなったのは、本当に偶然の出来事でした。工大へ入学した当初、学生番号順に割り当てられた研究室が、大学３年生の後期から、大学院を修了するまで私が毎日を過ごすこととなる佐藤篤研究室だったのです。あれは、忘れもしない、入学３ヶ月後のレクリエーションのときのことです。唐突にレーザーについて書かれた数枚の資料を渡され、佐藤篤先生から一言。「各自、この内容についてまとめて来て下さい。来週のこの時間、パワーポイントを使って発表してもらいます」。この課題が、光やレーザーに興味を持つきっかけとなり、また、北日本電線 光デバイス事業部を志望するきっかけになりました。この、私の人生に関わる大きなきっかけを与えてくださった佐藤篤先生には、本当に感謝してもしきれません。

最近も、自分の未熟さを感じる毎日では御座いますが、上司や先輩方に支えられ、何とか仕事を行なっております。また、展示会の際の激励の言葉も大きな励みになり、人は支え合って生きているのだな、と改めて感じました。一人でやろうとあせらずに、着実に知識を養い、頼り頼られながら一人前の設計・開発者となって、会社に、社会に貢献できるよう、精進して参りたいと思います。

最後になりますが、猛暑、節電と、体に負担がかかることが多い今夏になると存じますので、皆様くれぐれもご健康に留意され、今後も益々のご活躍されますことを心よりお祈り致します。

災害ボランティア体験記

貴重な体験



建設システム工学科　３年（硬式野球部）
久保田 晋太郎（くぼた しんたろう）

３月１１日。東日本を大きな地震が襲い、沿岸地域は、津波によって何もかも流され壊滅状態に。その状況を聞き、硬式野球部で復興支援のボランティア活動を実施することになり、名取市閖上地区、岩沼市下野郷地区、玉浦地区それぞれの民家と企業の５ヶ所で活動しました。

活動内容は、津波による瓦礫、泥等の撤去作業で９時から１６時まで行いました。現地を初めて見た時、あまりの酷さに言葉を失うくらいのショックを受けました。こんな状況でも復興に向けて必死になっている方々がいると思うと、自分も頑張らなければいけないという気持ちになりました。

海水に浸かったせいか独特の異臭がする中、現地の方の指示に従い、スコップで瓦礫などを取り除き一輪車で運ぶ作業の繰り返しでした。しかし作業はスムーズには進まずすごく大変でしたが、少しでも被災者の助けになればと思い、全員で協力し必死に頑張りました。

作業を終えると、被災者の方から「本当に綺麗になった。ありがとう。野球頑張ってね」とお礼の言葉をいただきました。

ボランティア活動を終え部活の日々に戻ると、ボランティア活動先の企業主より手紙が送られてきました。「６月中旬には会社全面再開の目途が立ち、各所にその案内を終えた」ということで、それは素直に嬉しかったし、ボランティア活動をして本当に良かったと実感しました。

この活動で私達は、ボランティアとは何か考えさせられ、すごく貴重な体験をすることができました。

震災から得たもの

知能エレクトロニクス学科　３年
菊地 弘晃（きくち ひろあき）

私は3月11日の東日本大震災以降、工大の避難所設営、地域の給水支援、災害ボランティアなどに参加しました。

これらの中でも、災害ボランティアとして被災地で活動した経験は、とても印象深いものでした。

名取市の閖上小学校へ行った際には、泥で汚れた写真やアルバムを洗い、種類別に並べる活動を行いました。被災した人たちが写る、過去の幸せそうな写真を見ながらの作業はとても心が痛み、辛かったです。しかし、写真を見つけた人が涙を流しながら「ありがとうございます」と感謝の言葉をかけてくれたとき、私はボランティアをやっていて本当によかったと心の底から思いました。

また、仙台市若林区にある六郷中学校へも行きました。そこは避難所になっており、私はボランティア仲間と共に３週間ほど継続して掃除などを行いました。

避難所で生活しているのは、家や家族を失い、不安を抱えている人がほとんどでしたが、私達にとても親切に接してくれました。辛い気持ちを押し殺して懸命に生きる人たちがそこにはいて、私は初めて本当の意味の心の強さ、優しさを感じたように思います。

私は災害ボランティアを通して、被災地の不条理な生と死の現実に触れ、自身の今の生き方を見つめ直すようになりました。多くの罪のない人が亡くなった一方で、生きている私が何をすべきなのかを真剣に考えて、これからも被災地のために行動していきたいと思います。

震災を経験して

クリエイティブデザイン学科　４年
荒木田 菜摘（あらきだ なつみ）

２０１１年3月11日の東日本大震災。工大図書室で1人作業をしていると、１４時４６分、地震が私たちを襲いました。必死で机にしがみつきながら、どんよりとした曇り空の下、校庭に集まる友達を見て、少しだけほっとしたのを覚えています。その時はこれまでにない大規模な震災だとは思ってもみませんでした。

震災当日は友人と避難所の長町中学校（仙台市太白区）で、暗くて寒い、長い夜を過しました。メールや一緒に居る友人が支えになっていました。「夢なのかな」と何度も思いました。時間が経つのを待つだけ。それが凄く辛かったのを覚えています。

翌日から工大八木山キャンパスでの生活に。様々な情報や余震による不安はありましたが、一緒に居てくれた友人はいつも笑わせてくれました。そのおかげで、その時間だけは震災がなかったかのようでした。安否確認、救援物資配り、事務室清掃など、目の前にある「出来ること」をただひたすらこなしました。今考えると、そうすることで自分を保とうとしていたのかもしれません。

物資の食料を手にした、おばあさんが涙を流しながら「ありがとう」と言っていた姿は、今でも忘れられません。

今回の震災で多くの犠牲者がでました。今後、同じ様な犠牲者をださない為の対策をたて、伝え続けなければならなりません。そのために自分に出来ることから動き、人との繋がり、思いやり、そして命を大切にしていきたいと感じました。必死で生き抜いてくれた、情報を送り続けてくれた、連絡を取り合ってくれた、隣に居てくれた、書ききれない程の感謝でいっぱい。ありがとう。

給水活動を通して地域貢献

建築学科４年
宮守 大輝（みやもり だいき）

３月11日の地震以来、ライフラインが途絶えアルバイト先も無くなり、自分ではどうにも変えられない現実と向き合いながら悶々と過ごしていました。

そんなある日、大学から給水ボランティアの人員を募るメールを受け取りました。「何かできることはないのか?」と模索していた最中の事であったので、迷わず参加の意思を固めることができました。

およそ２週間、休みを挟みながら、学校に設けられた給水所に通い続けました。主に被災者の方々が持ってきた容器に水を汲む作業と、訪れる人のなかには年配の方もいたので、その人の自宅まで水を運ぶ作業をしました。

春先とはいえまだ寒さが残る時期だったので、いずれも身を削るような作業でした。しかしながら、給水に訪れた被災者の方々の「ありがとう」という言葉が、私たちボランティアの原動力に繋がっていたと思います。

見返りを求めるつもりはなかったのですが、この給水ボランティアから私個人は何か特別なものを得たような気がします。震災前にも進路のこと等でいろいろと行き詰まっていた私に、その突破口を見つけるヒントを与えてくれました。

最後に、この復旧支援活動にご協力して下さった全国各地の水道局員の方々、工大学生課の方々、一緒に活動したボランティアのメンバー達に感謝したいです。この先社会に出るにあたって、大変貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございました。

【新潟支部】

祈る 震災復興

地震、火災、津波、そして原発事故と未だ経験のない災害が一度に押し寄せ、皆様の心に重い傷になっていることに、心からのお見舞いを申し上げます。

こちらでも、最初から大きな横揺れを感じいつになったら揺れが終わるのかと思うくらいの揺れが続いた後の津波の映像。そして原発の水素爆発と、ただただ唖然とするばかりでした。そして避難所の悲惨な状況、街の様子、被災者の多さ、すべてが衝撃的な映像でした。

勤務先でもすぐに災害応援隊を組織し、応援活動を行いましたが、帰ってきた人間からの報告を聞くと、新潟県では経験したことのない大災害との報告でした。

新潟県では未だ 7000 名余りの方が避難生活を送られています。

本来復興に大切な国の対応が、当てにできない中、地域のつながり、人間のつながりが大切になっています。我々も復興に向け、息の長い支援を続けたいと考えております。

ガンバレ東北・ガンバレ宮城

新潟支部事務局
篠川 恒
1973 年　土木工学科卒（3 回生・大沼研究室）
勤務先　新潟市水道局　非常勤職員

左／被災地での応急給水活動
下／応急復旧活動

【青森支部】

積極的な地域への貢献

未曾有の経験、3 月 11 日発生の東日本大震災直後から、先生方も被害を受けての大変な状況の中で地域のために調査・支援・対応に積極的に活動されている状況を知り、卒業生の一人として大変心強い限りであります。地域に役立つ存在としてご活躍されていることは、地域住民に勇気や希望を与える一助になっていることだと確信しております。被災されました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

私も工大在学中の 1978 年発生の宮城沖地震を体験したことを思い出します。ブロック塀倒壊の多発、ガラス片や落下物による負傷者、人口 50 万人以上の都市が初めて経験した都市型地震の典型として報道され、工大校舎も耐震補強工事を実施しました。

あれから 25 年経過しました。安心して暮らせる建築、技術者として復興計画にかかわり、辛抱強い東北人として頑張りましょう。

青森県支部同窓会は隔年の開催を決めており、今年の開催はありませんが、来年はまた皆さんのご協力を頂きながら、より一層の交流を深めていきたいと考えております。

そして 9 月に予定されている父母懇談会開催時の同窓会連絡会議も楽しみにしております。

青森県支部長
黄金﨑 勉
1980 年　建築学科卒（11 回生）

【北海道支部】

東日本大震災の復旧・復興に向けて

３月１１日午後２時４６分、その時、私は仕事上で大変お世話になった北海道工業大学教授笠原先生の最終講義を大学の教室で聴講していました。

かなり大きめで長い時間ゆれたことで教室内がざわつきましたが、支障もなく講義は終了し、車で帰路についた時、三陸沖を震源とする大地震が発生したことを知りました。その直後に余震と思われる大きな地震を車の運転中に感じたことを思い出します。

阪神淡路大震災が未曾有の災害と言われましたが、今回の東日本大震災は想像を絶するような広範囲にわたる災害になり、被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

あれから 4 カ月が過ぎ、まだまだ、復旧・復興の見通しが見えておりませんが、一歩々々着実に立ち向かっていくことが大切ではないでしょうか。東北工業大学の卒業生も復旧・復興の最前線で活躍されている方もおられると思います。

健康に御留意され、地元東北と関東の被災地・被災者の為にご尽力されることを祈っております。私達卒業生もこの一時に留まることなく、それぞれが出来ることを継続して復興の力になっていきたいと思います。

北海道支部事務局長
山口 龍彦
1974 年　土木工学科卒（4 回生）

写真はすべて
平成 22 年度総会
記念講演会、懇親会より

第27回
定時総会のお知らせ

開催日時：平成23年10月1日（土）
会　　場：ホテルメトロポリタン仙台
定時総会（３階・曙）／16：30〜17：30
懇 親 会（４階・千代の間）／17：30〜19：30

■議題
①平成22年度事業報告 ②平成22年度決算報告
③平成22年度監査報告 ④平成23年度事業計画
⑤平成23年度予算案 ⑥その他

懇親会参加費：3,000 円

※参加費は当日会場にて徴収いたします。
懇親会には多くの先生方もご臨席されます。同級生、研究室やクラブの同窓生等、お誘い合わせの上ご参加ください。

■卒業された皆様へ
東北工業大学同窓会　会費未納の方へ
同窓会会費は会員間のネットワーク化事業、在学生への支援、支部活動の推進、本学および本学後援会との共同事業等を進めるために有効に活用しています。同窓会会費未納の方は、別紙郵便振替通知書で、早急に納入いただきますようお願い申しあげます。

終身会費　20,000 円
（5,000 円×４回・10,000 円×２回の分割納入方法もございます）

郵便振替口座
02280-5-22263　東北工業大学同窓会

※すでに納入済の会員には郵便振替通知書は同封しておりません。
本会運営の趣旨をご理解の上、この通知をご御容赦ください。

【問い合わせ・参加お申し込み先】
東北工業大学同窓会事務局（東北工業大学キャリアサポート課内）
〒 982-8577　仙台市太白区八木山香澄町 35-1
TEL.022-305-3336　FAX.022-305-3337
URL.http://www2.odn.ne.jp/ ～ aan98460/

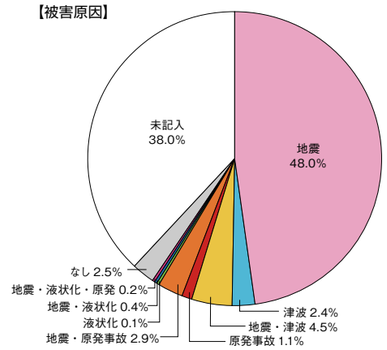
東日本大震災における安否確認・被害調査の御礼および結果

このたび同窓生正会員の安否確認および被災状況調査にあたり、震災後のご多忙中、ご協力くださいましてまことにありがとうございました。調査結果は下記の通りです。

東北工業大学同窓会正会員【東日本大震災・被害状況調査結果】
調査期間：2011 年７月　調査方法：往復はがきによりアンケート方式

発送通総数	内　容	返信数（割合）
21,708 通	返　信	2,367（10.9%）
	無返信	18,937（87.2%）
	宛先不明	357（1.60%）
	震災により配達不能	41（0.20%）

【被害原因】

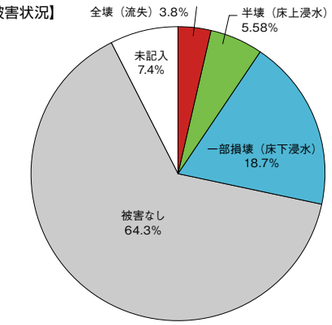


【地域別】

■地震	1398 件	■津波	57 件	■地震・津波	107 件
①宮城県	1136 件	①宮城県	46 件	①宮城県	88 件
②岩手県	113 件	②岩手県	5 件	②岩手県	12 件
③福島県	57 件	③福島県	3 件	③福島県	4 件
④山形県	51 件	④茨城県	1 件	その他	3 件
⑤茨城県	41 件	⑤千葉県	1 件		

【震災によりご逝去が確認された会員】
千葉 正文様（昭和 48 年卒・土木）
槻館 泰寛様（昭和 48 年卒・土木）
斎藤 正了様（昭和 49 年卒・土木）
阿部 智宏様（昭和 61 年卒・工業意匠）
丹野 幸久様（平成 1 年卒・通信）
横山 賢治様（平成 11 年卒・土木）
鈴木 雅邦様（平成 16 年卒・電子）
浅岡　洋様（平成 17 年卒・環境情報）
佐藤 拓馬様（平成 19 年卒・デザイン）
千葉 正樹様（平成 19 年卒・デザイン）
小野　力様（平成 22 年卒・デザイン）
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
なお、この方々の他に逝去者の未確認情報が若干名ありましたが、ご家族等に確認できなかった方については未掲載です。上記の会員以外で同窓生の死亡を確認された方は、ご家族の連絡先を含め、事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

【被害状況】



【地域別】

■全壊	89 件	■半壊（床上浸水）	138 件	■一部損壊（床下浸水）	443 件
①宮城県	71 件				
②岩手県	9 件	①宮城県	122 件	①宮城県	319 件
③福島県	6 件	②福島県	9 件	②福島県	52 件
④千葉県	1 件	③岩手県	3 件	③茨城県	24 件
その他	1 件	④茨城県	2 件	④岩手県	22 件
		その他	2 件	⑤栃木県	9 件

学校法人東北工業大学復興支援金ご協力のお願い

先般の東日本大震災によって被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。また、本学に対し多くの方々から激励のお言葉やご支援のお申し出をいただき、心より感謝し、厚く御礼申し上げます。

さて、上記震災により本学園関係においては、学生生徒やそのご家族に犠牲者が出たほか、家屋流出等の被害も出ました。本学園としてはこれらの学生生徒に対し、学費減免措置を講じ支援を行っております。

また、建物、施設等も相当の被害を受け、現在その復旧工事を実施しているところであります。

これらの状況を踏まえ、学生生徒に対する更なる支援金の交付と復旧工事に伴う財政負担の軽減を目的として、寄付募集を行うことといたしました。

ついては、ともに被災した中大変心苦しいことではありますが、趣旨ご理解の上、ご協力くださいますよう慎んでお願いいたします。

なお、急な取り組みであることから、一般寄付募集事業のような趣意書の準備ができておりませんので、ご理解願います。

学校法人東北工業大学
理事長　岩崎　俊一

■申し込み方法
同封の振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄の「ゆうちょ銀行」にてお振込み願います。
※ 振込手数料はかかりません。
※ この支援金は、申告することにより寄付金控除対象となります。

■お問合せ先
学校法人東北工業大学　法人本部事務局　財務課
〒 982-8577　宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35-1
TEL：022-305-3344　　FAX：022-305-3362
E-mail：zaimu@tohtech.ac.jp

新たなネットワークをめざして

東北工業大学同窓会

事務局：東北工業大学キャリアサポート課内
〒 982-8577　仙台市太白区八木山香澄町 35-1
TEL.022-305-3336　FAX.022-305-3337
URL.http://www2.odn.ne.jp/ ～ aan98460/
E-MALE.dousoukai@tohtech.ac.jp